

- 問1 2020年の統計において、ある農作物の国内生産量（主原料）の内訳を見ると、静岡県が36.1%で第1位、鹿児島県が34.2%で第2位となっており、この2県で全国の約7割を占めています。静岡県内では東名高速道路沿いの台地などで大規模な農園が見られる、この農産物を選びなさい。  
（2022年 奈良県公立入試 類似）
1. レタス                                      2. みかん                                      3. 茶                                      4. キャベツ
- 
- 問2 ある都道府県の統計データにおいて、年平均気温が16.5度、年降水量が2324.9mmと温暖多雨な気候を示し、農業産出額の上位品目に「茶」と「みかん」の両方が含まれている都道府県はどこですか。  
（2016年 東京都公立入試 類似）
1. 長野県                                      2. 宮崎県                                      3. 宮城県                                      4. 静岡県
- 
- 問3 東海工業地域に属する静岡県では、自動車やオートバイなどの生産が非常に盛んです。県の製造品出荷額において、24パーセント以上の最も高い割合を占めている産業分類を選択肢から選びなさい。  
（2026年 三重県公立入試 類似）
1. 輸送用機械器具製造業                                      2. 情報通信機械器具製造業                                      3. 電気機械器具製造業                                      4. 化学工業
- 
- 問4 愛知県の渥美半島は、かつては水不足に悩まされる地域でしたが、ある大規模な用水路が整備されたことで、日本有数の農業地帯へと発展しました。この地域に供給され、施設園芸農業の発展を支えている用水の名称として正しいものはどれですか。  
（2026年 富山県公立入試 類似）
1. 明治用水                                      2. 愛知用水                                      3. 香川用水                                      4. 豊川用水
- 
- 問5 中部地方の日本海側が、世界でも有数の豪雪地帯となっている理由について述べた文として正しいものを、海流の性質と季節風の関係から選びなさい。  
（2016年 兵庫県公立入試 類似）
1. 太平洋側を流れる暖流の黒潮から分かれた対馬海流が、冬の乾燥した季節風を冷やすことで、日本海側に霧を発生させるため。                                      2. 日本海を北上する暖流の対馬海流の上空で水蒸気が発生し、それが湿った北西の季節風によって運ばれ、高い山脈に突き当たるため。                                      3. 日本海を北上する寒流の親潮が海水を冷却し、北東から吹く湿った季節風が中部地方の平野部で冷やされて雪を降らせるため。                                      4. 日本海を南下する寒流のリマン海流の影響で気温が下がり、太平洋側から吹き込む季節風が冷やされて雪に変わるため。
- 
- 問6 福井県鯖江市の眼鏡産業のように、かつて積雪が多く農作業ができない「農閑期」に、農家の「副業」として始まった地場産業が、都市部から離れた地域でも大きく発展した理由として、最も適切なものはどれですか。  
（2018年 群馬県公立入試 類似）
1. 雪国の農閑期における安価な労働力を活用できたため                                      2. 原料となる鉱物資源や燃料となる木材が、その地域付近で豊富に採れたため                                      3. 海外から安価な製品が大量に輸入され、その加工技術が直接伝わったため                                      4. 鉄道の開通により、大消費地である東京や大阪へ短時間で出荷できたため
- 
- 問7 2023年度の統計において、発電電力量が多い上位4県を岐阜県、富山県、新潟県、長野県といった中部地方の県が独占している発電方式について、その特徴として適切な記述を選んでください。  
（2026年 北海道公立入試 類似）
1. 二酸化炭素を排出せずに繰り返し利用できる、再生可能エネルギーの一つに位置づけられる。                                      2. 天候に左右されやすく、夜間や無風の状態では発電が不可能になるという課題がある。                                      3. ウランを燃料として利用し、一度の発電で大量の電力を安定して供給できるが放射性廃棄物が出る。                                      4. 石炭や天然ガスなどの化石燃料を燃焼させて蒸気を作り、タービンを回して発電する。
- 
- 問8 中部地方の太平洋沿岸部で行われている、温室やビニールハウスを活用した「施設園芸農業」の利点について、その背景や目的を説明した文として最も適切なものはどれですか。  
（2022年 山口県公立入試 類似）
1. 高冷地の冷涼な夏の気候を活かして、他の地域よりも収穫の時期をあえて遅らせることで、競合を避けて高い価格で販売できる。                                      2. 自然環境の影響を抑え、気温や湿度を管理することで、季節を問わず計画的に作物を生産・出荷できる。                                      3. 大消費地に近い立地を活かして、収穫したばかりの鮮度が高い野菜を、輸送コストを抑えて市場へ届けることができる。                                      4. 広大な土地に大規模な機械を導入することで、土地の単位面積あたりの収穫量を増やし、穀物を大量生産できる。
- 
- 問9 愛知県の工業に関する統計において、1960年から2014年にかけて工場の数にあたる事業所数は減少している一方で、製造品出荷額は1.4兆円から43.8兆円へと劇的に増加しています。この変化の背景として、2014年時点で出荷額全体の約7割を占めるまで成長し、愛知県の経済を支えている工業分野を次の中から選びなさい。  
（2018年 埼玉県公立入試 類似）
1. 自動車などの輸送用機械を中心とした機械工業                                      2. 沿岸部のコンビナートで発展した基礎素材を作る金属工業                                      3. 全国的な需要拡大に伴い事業所数が増加した木材・木製品工業                                      4. 古くから地域の経済を支えてきた伝統的なせんい工業
- 
- 問10 日本の気候区分において、日本海側の気候に見られる冬の様子と、それが人々の生活に与えた影響について述べた文として、正しいものはどれですか。  
（2020年 大阪府公立入試 類似）
1. シベリア高気圧からの風が山脈に遮られてフェーン現象を引き起こすため、冬でも気温が高く、農作物の成長が早まった。                                      2. 南東の季節風が山脈を越えて乾いた風として吹き込むため、冬でも乾燥した晴天が続く、屋外での作業が効率的に進められた。                                      3. 日本海を渡る北西の季節風の影響で積雪が多く、冬の農作業が制限されるため、古くから冬の間の労働力を生かした産業が発達した。                                      4. 対馬海流の影響で冬でも非常に温暖であり、雪が降らないため、二毛作による農業が盛んに行われた。
- 
- 問11 群馬県嬬恋村と愛知県豊橋市の月別平均気温を比較すると、夏季において嬬恋村は豊橋市よりも大幅に気温が低く、キャベツの生育に適した温度が保たれています。このような農業が行われている地域として、共通する地理的条件を答えなさい。  
（2023年 長崎県公立入試 類似）
1. 緯度が低い地域                                      2. 標高が高い地域                                      3. 内陸の広大な盆地                                      4. 暖流の影響を強く受ける沿岸部
- 
- 問12 富山ライトレール（LRT）の導入による人々の移動手段の変化について、利用者の構成に着目した記述として正しいものはどれですか。  
（2016年 長野県公立入試 類似）
1. 旧JR線の利用者だけでなく、自家用車を利用していた層や以前は鉄道を利用していなかった層が一定数利用するようになった。                                      2. 旧JR富山港線の利用者のみが継続して利用しており、車社会から公共交通への転換という目標は達成されていない。                                      3. 以前はバスを利用していた人々がすべて自家用車での移動に切り替えたため、鉄道の利用者は旧JR時代よりも大幅に減少した。                                      4. 以前は自転車を利用していた層が急増した一方で、旧JR富山港線を利用していた人々の多くが鉄道の利用をやめてしまった。

## 答え合わせ・解説

|     |                                                                      |                                                                                                                                                                                                         |
|-----|----------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問1  | 答え 3<br>茶                                                            | 静岡県は気候が温暖で、排水の良い牧之原などの台地が広がっていることから、古くからこの農作物の栽培が盛んです。統計上では静岡県が1位、鹿児島県が2位となっており、この2県が日本の主要な産地として知られています。選択肢にある「みかん」も静岡県の特産物ですが、統計の割合や栽培景観の特徴から判断すると、茶が最も適切です。                                           |
| 問2  | 答え 4<br>静岡県                                                          | 静岡県は、太平洋側の温暖な気候と、牧之原台地に代表される水はけの良い台地、さらには日当たりの良い傾斜地という地形的特色を持っています。これを活かして台地では茶の栽培が、傾斜地ではみかんの栽培が盛んに行われており、いずれも全国上位の産出額を誇ります。宮崎県も温暖ですが茶のイメージは静岡ほど強くなく、長野県や宮城県は気候データが異なります。                               |
| 問3  | 答え 1<br>輸送用機械器具製造業                                                   | 静岡県は愛知県などとともに東海工業地域を形成しており、特に浜松市周辺などを中心に自動車や二輪車（オートバイ）の生産拠点が集まっています。製造品出荷額の統計資料においても、輸送用機械が全体の4分の1近くを占める最大の基幹産業となっており、これに電気機械や化学工業が続く構成が特徴です。                                                           |
| 問4  | 答え 4<br>豊川用水                                                         | 渥美半島はもともと大規模な河川がなく水不足に悩まされていましたが、1960年代に豊川用水が完成したことで、安定した農業用水の確保が可能になりました。これにより、温室を利用した施設園芸農業が急速に発展しました。なお、愛知用水は知多半島、明治用水は安城市周辺（西三河平野）を流れる用水です。                                                         |
| 問5  | 答え 2<br>日本海を北上する暖流の対馬海流の上空で水蒸気が発生し、それが湿った北西の季節風によって運ばれ、高い山脈に突き当たるため。 | 日本海側を流れる暖流である対馬海流は、冬でも海水温が比較的高いため、その上空で多くの水蒸気が発生します。大陸から吹く冷たく乾いた北西の季節風が日本海を渡る際、この水蒸気をたっぷりと含んで湿った空気に変わります。この空気が中部地方の険しい山地（越後山脈など）にぶつかって上昇することで、日本海側に大量の雪を降らせる仕組みになっています。                                 |
| 問6  | 答え 1<br>雪国の農閑期における安価な労働力を活用できたため                                     | 北陸地方などの多雪地域では、冬の間に農作業ができない農閑期が存在します。この期間の農民の労働力を副業として活用することで、都市部に比べて賃金が安い（安価な労働力）という利点を生かし、地場産業が成立・発展しました。鯖江市の眼鏡産業も、当初はこのように農家の冬の仕事として広まったものです。現在は、より人件費の安い発展途上国との価格競争が課題となっています。                       |
| 問7  | 答え 1<br>二酸化炭素を排出せずに繰り返し利用できる、再生可能エネルギーの一つに位置づけられる。                   | 水力発電は、自然界に存在する水の循環を利用して発電するため、石油や石炭などの化石燃料を消費しません。そのため、地球温暖化の原因となる二酸化炭素（CO2）をほとんど排出せず、持続的に利用可能な「再生可能エネルギー」として、環境負荷の低い重要な電源となっています。                                                                      |
| 問8  | 答え 2<br>自然環境の影響を抑え、気温や湿度を管理することで、季節を問わず計画的に作物を生産・出荷できる。              | 施設園芸農業の最大の目的は、建物によって内部の環境をコントロールすることにあります。これにより、本来の生育時期ではない季節に栽培したり、天候不順による被害を防いだりすることが可能になり、市場の需要に合わせて安定的に出荷できるようになります。選択肢にある「都市に近い立地を活かす」ものは近郊農業、「収穫時期を遅らせる」ものは抑制栽培の特徴を説明したものです。                      |
| 問9  | 答え 1<br>自動車などの輸送用機械を中心とした機械工業                                        | 愛知県では高度経済成長期以降、産業構造が大きく変化しました。1960年頃はせんい工業などの軽工業も一定の割合を占めていましたが、その後、豊田市周辺を中心に自動車産業（輸送用機械）が圧倒的な成長を遂げました。その結果、事業所の集約化が進み数は減ったものの、機械工業の生産性が飛躍的に向上したことで、製造品出荷額は30兆円を大きく超える規模に達しています。                        |
| 問10 | 答え 3<br>日本海を渡る北西の季節風の影響で積雪が多く、冬の農作業が制限されるため、古くから冬の間の労働力を生かした産業が発達した。 | 冬の日本海側では、日本海を渡る際に水分を蓄えた冷たい季節風が山脈にあたって大量の雪を降らせます。この積雪により冬場の農業が制限されるという厳しい環境条件が、結果として室内で行う伝統的な工芸品や織物といった産業を育む要因となりました。「農作業ができない期間」を「別の仕事にあてる期間」として活用した、地域独自の工夫が見られます。                                     |
| 問11 | 答え 2<br>標高が高い地域                                                      | 高冷地農業が成立する最大の要因は「標高」にあります。平地である豊橋市は夏に30度近い気温になりますが、標高1000mを超える地域にある婦恋村では、夏でも平均気温が20度前後に保たれます。この涼しい気候こそが、冷涼な環境を好む野菜の栽培を可能にしています。                                                                         |
| 問12 | 答え 1<br>旧JR線の利用者だけでなく、自家用車を利用していた層や以前は鉄道を利用していなかった層が一定数利用するようになった。   | 富山ライトレールの利用者構成を調査したデータによると、以前から鉄道（JR）を利用していた人は全体の半数に満たない46.8%です。残りの約半数は、以前は自家用車で移動していた人や、新しくその路線を使い始めた人、あるいは徒歩・自転車から切り替えた人たちです。特に自家用車や新規層が合計で3割以上を占めていることは、JR富山港線を利用していなかった人が新たに鉄道を利用するようになったことを示しています。 |